

3 . 学校外の学習機会の利用

①学習塾の利用

第1回調査から第3回調査まで、いずれの調査時点でもおよそ3分の1の子どもが「学習塾」に通っていた。第2回調査と第3回調査の比較では、「家庭教師」「通信教育」「宅配教材」ともに減少している。大都市では45.8%が「学習塾」に通い、しかも、20.7%が「進学塾」に通っている。

Q

あなたは今、学習塾に行っていますか（そろばん、習字などの塾は除きます。「公文」のような自習教室は含めます）。

[学習塾に行っている人にお聞きします]

週に何日行っていますか。

あなたの行っているのは、どんな学習塾ですか。

学習塾では1回に、平均何時間くらい勉強しますか。

あなたが行っている学習塾は、1クラス何人ですか。

あなたは家で勉強するとき、次のようなことをしますか。

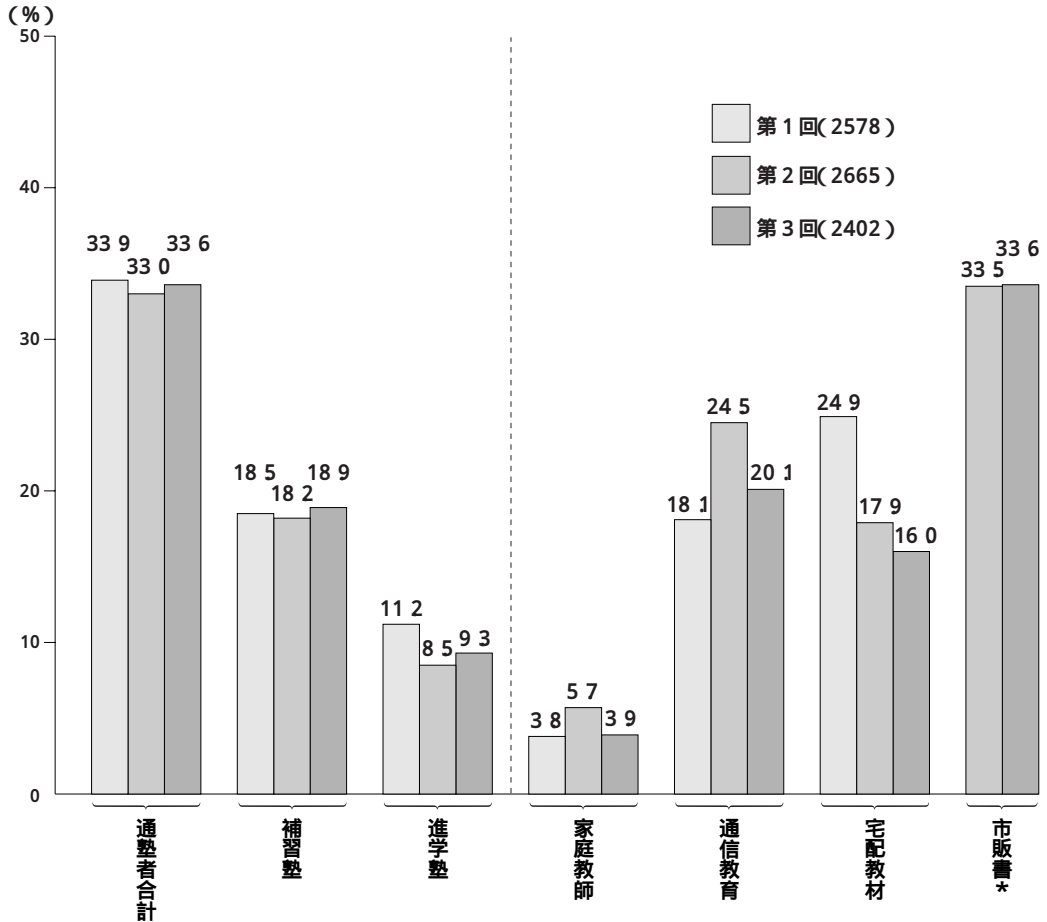
情操教育、スポーツ、学校の補習、受験勉強と小学生の放課後は忙しい。ここでは、いわゆる習い事やおけいこ以外の、学校の勉強と中学受験の勉強に絞って、子どもたちがどこで、あるいは、どのような学習機会を使って学習しているのかをみてみよう。

まず、図1-1-10は、小学生に学校外の「勉強の様子」を尋ねた結果である。第1回調査から第3回調査まで、いずれの調査時点でもおよそ3分の1の子どもが「学習塾」に通っていた。塾の中味もほぼ一定で、およそ2割弱が「補習塾」、1割前後が「進学塾」であった。さらに、「家庭教師」と「通信教育」はそれぞれ3.8%、5.7%、3.9%、18.1%、24.5%、20.1%と第1回調査から第2回調査にかけていったん増加して第2回調査から第3回調査にかけては反転して減少している。「宅配教材」は24.9%、17.9%、16.0%と減少し続けている。このようにして、第2回調査と第3回調査の比較では、「家庭教師」「通信教育」「宅配教材」ともに減少している。「市

販書（書店などで売っている問題集・参考書）」による勉強は第2回調査以降に尋ねているが、第2回調査、第3回調査ともにおおよそ3分の1が「市販書」を利用して勉強している。

表1-1-15で、地域別に「勉強の様子」が大きく異なることがわかる。大都市では45.8%が「学習塾」に通い、しかも5分の1の20.7%が「進学塾」に通っている。これに対して地方都市の通塾率は34.2%で大都市よりも11.6ポイント少ないが、「補習塾」では23.7%と大都市の「補習塾」通塾率よりも5ポイント近く高くなっている。また、郡部の通塾率は20.8%と大都市の半分以下で、「進学塾」に至っては1.5%とゼロに近い。また、その他の学習機会については、地方都市で興味深い特徴があった。地方都市では、「通信教育」の利用率が他の地域よりおよそ6ポイント高く24.4%、「宅配教材」はおよそ10ポイント高く22.0%、「市販書」もおおよそ15ポイント高く44.2%が利用している。

図1-1-10 学校外の学習機会の利用（時系列）



注1)「通塾者合計」は、「学習塾に行っていますか」の項目に「行っている」と回答した児童で、「補習塾」「進学塾」「その他」「無答・不明」からなる。

注2) *は第1回に該当項目なし。

注3) ()内はサンプル数。

表1-1-15 学校外の学習機会の利用（地域別）

	(%)									
	補習塾	進学塾	その他	無答・不明	通塾者合計	家庭教師	通信教育	宅配教材	市販書	
全 体 (2402)	18.9	9.3	4.2	1.1	33.6	3.9	20.1	16.0	33.6	
大 都 市 (849)	19.1	20.7	4.2	1.8	45.8	5.1	17.9	12.7	30.4	
地方都市 (708)	23.7	4.9	4.2	1.3	34.2	4.4	24.4	22.0	44.2	
郡 部 (845)	14.8	1.5	4.1	0.4	20.8	2.2	18.8	14.2	28.0	

注) ()内はサンプル数。

次に、表1-1-16で、「補習塾」と「進学塾」との違いに焦点を当てて、通塾の様子をみてみよう。通塾日数は、「補習塾」では「1日」が14.9%、「2日」が67.7%、合計で82.6%である。そして、「3日以上」はわずか16.5%であった。これに対して「進学塾」では「1日」が7.1%、「2日」が21.9%、合計で29.0%。「3日以上」は69.7%であった。

「進学塾」のほうが圧倒的に通塾日数が多い。続いて、塾での勉強時間では、「補習塾」では「1時間くらい」がもっとも多く54.1%、続いて「2時間くらい」が32.3%であるのが、「進学塾」では「2時間くらい」が35.3%、「3時間くらい」が34.8%である。「3時間以上」の割合を比べると「補習塾」では6.4%に対して「進学塾」では53.6%であり、「進学塾」

表1-1-16 通塾状況（塾のタイプ別）

通塾日数（週あたり）								無答・不明	3日以上
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日		
通塾者合計（807）	15.5	50.7	20.1	7.2	2.7	0.9	0.5	2.5	31.4
補習塾（455）	14.9	67.7	12.1	2.6	0.9	0.7	0.2	0.9	16.5
進学塾（224）	7.1	21.9	42.9	17.9	6.7	0.9	1.3	1.3	69.7
その他（101）	37.6	46.5	8.9	4.0	1.0	2.0	0.0	0.0	15.9

塾の勉強時間（1回あたりの平均）						無答・不明	3時間以上
	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間以上		
通塾者合計	4.6	40.4	31.0	13.0	6.8	4.2	19.8
補習塾	5.3	54.1	32.3	4.4	2.0	2.0	6.4
進学塾	0.9	9.4	35.3	34.8	18.8	0.9	53.6
その他	9.9	55.4	22.8	4.0	3.0	5.0	7.0

1クラスの生徒数				
	1人	2～4人	5人以上	無答・不明
通塾者合計	6.9	17.6	70.1	5.3
補習塾	8.6	22.0	64.8	4.6
進学塾	5.4	7.1	87.1	0.4
その他	4.0	23.8	69.3	3.0

注) ()内はサンプル数。

では「3時間以上」が過半数を占める。塾のクラスサイズは、「進学塾」のほうが大きく、「5人以上」が87.1%と9割近くを占めている。「進学塾」は「補習塾」よりも、通塾日数、勉強時間、クラスサイズの点でハードな勉強をしている。

最後に、表1-1-17で、塾での勉強の様子を時系列比較すると、「進学塾」で第2回調査と第3回調査で、週に「3日以上」通塾する割合と1回につき「3時間以上」勉強する割合が減少していた。「進学塾」がやや厳しさを弱めている。

表1-1-17 通塾状況（時系列）

(%)

	週に「3日以上」の通塾		1回「3時間以上」の勉強	
	第2回 (880)	第3回 (807)	第2回	第3回
通塾者合計	32.1	31.4	20.8	19.8
補習塾	16.9	16.5	4.9	6.4
進学塾	74.9	69.7	63.4	53.6
その他	23.5	15.9	10.6	7.0

注)()内はサンプル数。

② 習い事・おけいこ事

もっとも多く行われている習い事・おけいこ事は、「スポーツ」47.4%である。これは男子に多い。また、「音楽」は大都市に多く、「習字」は地方都市、「そろばん」は郡部に多い。

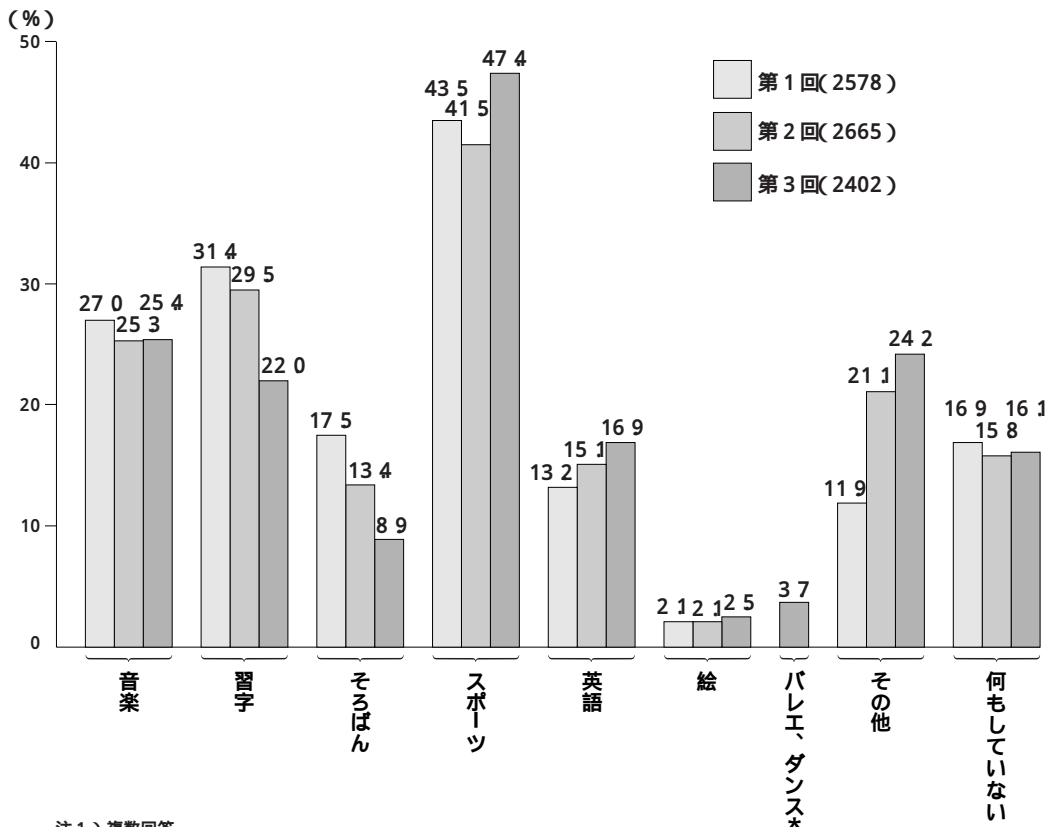


あなたは、おけいこや学校外のクラブに行っていますか。

図1-1-11では、もっとも多く行われている習い事・おけいこ事は「スポーツ（水泳、剣道、柔道、体操、野球、サッカーなど）」の47.4%で、続いて、「音楽（ピアノ、バイオリン、エレクトーンなど）」の25.4%、「習字」の22.0%となっている。また、この11年

間で減少したのは、「習字」（第1回31.4% 第2回29.5% 第3回22.0%）と「そろばん」（17.5% 13.4% 8.9%）で、増加したのは「スポーツ」（43.5% 41.5% 47.4%）と「英語」（13.2% 15.1% 16.9%）であった。

図1-1-11 習い事・おけいこ事（時系列）



注1) 複数回答。

注2) *は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) ()内はサンプル数。

さらに、表1-1-18で、性別および地域別に習い事・おけいご事の利用率をみると、女子のほうが多いのが、「音楽（ピアノ、バイオリン、エレクトーンなど）」（男子10.5%対女子41.5%）と「習字」（15.3%対29.5%）、「英語」（14.8%対19.3%）であり、男子のほうが多いのが「スポーツ（水泳、剣道、柔道、

体操、野球、サッカーなど）」（60.7%対33.0%）である。また、地域別では、大都市で多かったのが「音楽」「スポーツ」であり、地方都市では「習字」および「スポーツ」「英語」の利用率が高い。そして、郡部では「そろばん」と「何もしていない」が多くなっている。

表1-1-18 習い事・おけいご事（性別・地域別）

(%)

	音楽	習字	そろばん	スポーツ	英語	絵	バレエ、ダンス	その他	何もしていない
全 体 (2402)	25.4	22.0	8.9	47.4	16.9	2.5	3.7	24.2	16.1
男 子 (1238)	10.5	15.3	8.3	60.7	14.8	1.6	0.7	21.4	17.7
女 子 (1154)	41.5	29.5	9.4	33.0	19.3	3.6	7.0	27.3	14.3
大 都 市 (849)	<u>29.1</u>	16.1	5.3	48.8	16.3	<u>4.4</u>	<u>4.9</u>	<u>34.2</u>	12.8
地方都市 (708)	26.1	<u>29.8</u>	7.8	<u>51.4</u>	<u>21.9</u>	1.7	4.5	21.5	13.1
郡 部 (845)	21.1	21.4	<u>13.5</u>	42.6	13.4	1.4	1.9	16.4	<u>21.8</u>

注1) 複数回答。

注2) ♪ ♫ は男女で10%以上、^ v は5%以上差があるもの。

注3) 下線は最大値。

注4) () 内はサンプル数。

③メディアの利用

およそ8割の子どもが学校でパソコンを使い、5割強の子どもが家でパソコンを使う。インターネット利用率も学校が4割、家庭が3割強である。パソコンを含めたニュー・メディアを利用した学習教材の利用率の累計は63.0%から89.8%へと増えている。



パソコンやテレビなどのメディア（機械）についてお聞きします。

パソコンやパソコン通信、パソコンを利用した学習システムの利用が急増している。

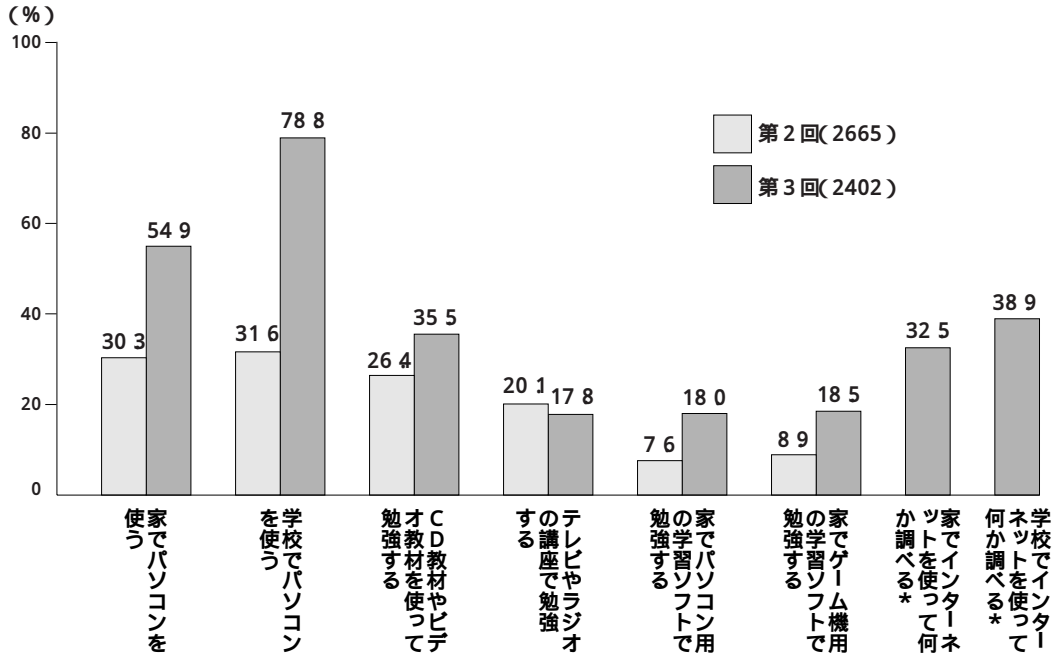
図1-1-12で第3回調査の結果をみると、およそ8割の子どもが「学校でパソコンを使う」、5割強の子どもが「家でパソコンを使う」に「よくある」「時々ある」と答えている。第2回調査の割合がそれぞれおよそ3割であったことを考えると、非常に急激なパソコン利用の普及である。

さらに、「学校でインターネットを使って何か調べる」がおよそ4割、「家でインターネットを使って何か調べる」も3割強であり、インターネット利用も急速に普及しつつある。こうした中で、従来からのメディアである「CD教材やビデオ教材を使って勉強する」

(第2回26.4% 第3回35.5%)や「テレビやラジオの講座で勉強する」(20.1% 17.8%)の他に、パソコンやゲーム機を使っての学習が「家でパソコン用の学習ソフトで勉強する」(7.6% 18.0%)、「家でゲーム機用の学習ソフトで勉強する」(8.9% 18.5%)で急増している。なお、これら4つのニュー・メディアを利用した学習教材の利用率の累計は63.0%から89.8%へと増えている。

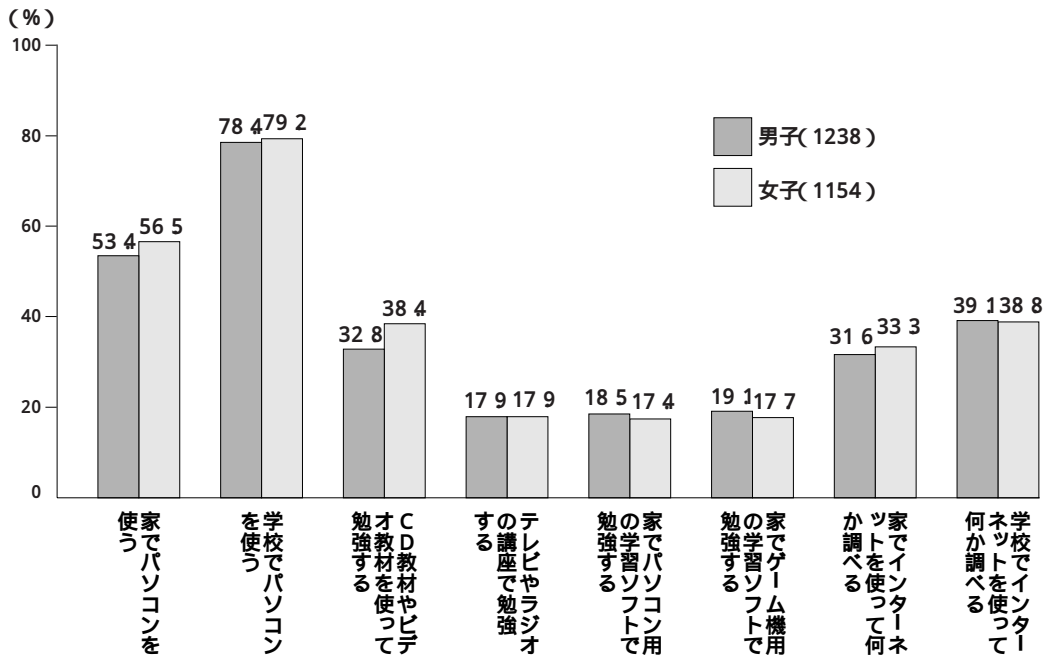
図1-1-13で、性別にニュー・メディアの利用率をみると、男女でほとんど差がないことがわかる。唯一大きな差があるのは、「CD教材やビデオ教材を使って勉強する」で男子が32.8%であるのに対して、女子は38.4%と高くなっている。

図1-1-12 メディアの利用（時系列）



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) 第1回は該当項目なし。また、*は第2回に該当項目なし。
 注3) ()内はサンプル数。

図1-1-13 メディアの利用（性別）



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) ()内はサンプル数。